第 12 回　福岡市科学館に係る指定管理者評価委員会　議事概要		
日　時	2026 年 10 月 9 日（金）10:00～12:40	場所：福岡市科学館４階　会議室２・３
出 席 者 （敬称略、 順不同）	委員長　渡辺　亮一　福岡大学工学部　教授 副委員長　真鍋　徹　北九州市立自然史・歴史博物館　館長 丸田　起大　西南学院大学商学部　教授 池田　祐香　公認会計士協会北部九州会（オンライン出席） ＜欠席＞　杉原　賢太郎　福岡市小学校理科研究会　会長 〔指定管理者〕　※議事（２）（３）のみ出席 〔事務局〕 ■福岡市 こども未来局こども健全育成課　山﨑課長、鐘ヶ江係長、神田	

【議事次第】

１　開会

２　あいさつ

３　議事

（１）委員長の選出について

（２）令和７年度の運営状況について

（３）「第２次５カ年計画」に基づく管理運営に関するセルフモニタリング結果について

（４）運営に関する市の年度評価について

（５）「第２次５カ年計画」に基づく管理運営に関する市の評価について

（６）委員会における評価内容の審議

・運営に関する市の年度評価

・「第２次５カ年計画」に基づく管理運営に関する市の評価

４　その他

【議事概要】

１．開会

２．あいさつ

３．議事

（１）委員長選出について

（２）令和７年度の運営状況について

資料にしたがって指定管理者から説明があり、内容についての質疑応答が行われた。

以下、要旨をまとめる。

委員	病院や福祉施設でのアウトリーチでは、どのようなプログラムを実施しているか。
指定管理者	施設の要望に応じ、科学工作や実験などを実施している。子どもの体調や年齢等に応じて変更できるよう、複数のプログラムを準備している。
委員	中学生の来館増加に向けて、どのような取組を実施したか。
指定管理者	中学生自身が企画・運営に参加する取組を始めた。また、サイエンスカフェ等では、大学の先生に進路選択の経緯や中高生時代の経験も話していただく構成にしている。

委員	セミナーと特別展を連動させ、来館者が全館を回遊するよう促す仕掛けがあるとよい。
指定管理者	関連イベントを来館のきっかけとしていただき、チラシ等で特別展も案内している。引き続き連動を図りたい。
委員	アンケートの来館回数は、比率だけでなく絶対数の変化も示すとよい。また、ドームシアターでは子どもの回答が少ないが、どのように考えているか。
指定管理者	集計期間等にも留意し、絶対数の変化を確認する必要がある。ドームシアターは大人の回答に偏りがあり、子どもの意見を吸い上げる仕組みも考えたい。
委員	生成ＡＩの活用では、実体験の前に答えが与えられることが懸念される。実体験を重視しつつ、小学生のうちから適切な使い方を考える機会も設けてほしい。
指定管理者	答えを出すための安易な活用は想定していない。考えを広げ、表現する可能性はあるが、実際に手を動かし、体験して失敗する機会を重視している。

３　議事（３）「第２次５カ年計画」に基づく管理運営に関するセルフモニタリング結果について

資料にしたがって指定管理者から説明があり、内容についての質疑応答が行われた。

以下、要旨をまとめる。

委員	スタッフのウェルビーイングについて、どのような取組を想定しているか。
指定管理者	現在のスタッフに特段の課題があるということではなく、科学館に関わる人全体のウェルビーイングを、将来像も見据えた長期的な取組として捉えている。
委員	アンケートの不満意見は、運営方針や改善の取組と紐づけられているか。
指定管理者	改善できる部分は対応している。会場案内の改善に加え、期待した内容との相違を減らすため、ＳＮＳ等で事前に伝える内容も検討している。
委員	満足度を評価に用いるに当たり、アンケートの回収数を増やす取組や、統計的な妥当性の確認を検討してほしい。
指定管理者	イベント等の参加者には必ずアンケートをお願いするなど、回収数の増加に努めている。一方、日常的な来館者からの回答や、重複回答の把握には難しさがある。

以降の議事要旨は省略

以上